

ゆやの子わいわいスナップ！

みんなのひろば



くらすめ～る

学級通信

文洋小学校1・2年

担任：藤本 尊恵先生

児童：9名

やさしい子がいっぱい！



「トントントントン」飼育小屋から野菜を刻む音が聞こえてきます。今週は、一・二年が飼育当番。一学期の初め、「この卵、ちっちゃいね。赤ちゃんが産んだの？」と言っていたAちゃんも、ちゃんと包丁が使えるようになりました。鳥のウンチが嫌だったB君も、鳥さんとお話ししながら掃除をしています。二年生が、お手本を見せながら上手に教えてくれたのです。わがクラスは、明るく優しい二年生四名と、元気で無邪気な一年生五名の複式学級。

今、一年生が楽しみにしているのは、新一年生に、いろいろ教えてあげること。四月になったら、きつと優しい先輩となってお世話をすることでしょう。そう、自分達がこの一年間、一年生にしてみらったように…。そして、そんな彼等の様子を、三年生になった四人が、にこにこしながら見守っていてくれることでしょう。こうやって、「優しさ」を下の学年に伝えていってほしいなあと思います。文洋は、優しい子がいっぱいです。

暮らしのワンポイント

乾燥しがちな冬。石油ストーブやガスストーブを燃焼し続けると、室内の空気はさらに乾きます。人間にとって快適な湿度は五〇～七〇%といわれますが、それより乾燥した空気に長時間さらされると、のどや鼻の粘膜が乾き、細菌やウイルスに対する抵抗力が弱まって風邪をひきやすくなります。

室内の湿度調節

鉢植えに水を注いで加湿する

を使って部屋の湿度を保ちましょう。ストーブも加湿器もないお宅では、時々、部屋のあちこちに霧吹きをかけて水分を補うといいでしょう。洗面器などに水を張って置いておくだけでも効果がありますが、室内に観葉植物などの鉢植えを置き、根元に水をたっぷり注ぐことでも、部屋の加湿に役立ちます。ところで、暖房時に忘れてはならないのが換気です。換気をせずにストーブをつけっぱなしにしていると、一酸化炭素中毒になる危険があります。また、加湿のし過ぎは窓や壁に結露を起し、家を傷める原因となります。時々窓を開けて室内に外気を入れることが、健康と安全を保つポイントです。春まであと一息。乾燥を防ぎ、冬を快適に過ごしましょう。

また、乾燥した空気は、人の体から水分を蒸発させて熱を奪うため、より寒く感じられるのです。日本家屋にふんだんに使われる木材は、湿度が高い時は湿気を吸い、逆に乾燥している時は水蒸気を放出して湿度を上げる吸放湿性に優れています。しかし、マンションなどの鉄筋コンクリート造りの住宅は、気密性が高い一方で吸放湿性が低く、冬場は乾燥しやすくなります。暖房中の室内では、空気を乾燥させないように常に加湿を心がけることが大切です。石油ストーブの上に水を入れたヤカンをかけたり、加湿器

